

さみどり

二宮町立一色小学校 学校だより
平成29年度 第3号(7/20)
発行者：校長 古正栄司
一色小学校：0463-71-1543

【防災教育】6/9(金)

今回の防災教育の目的は、主に、**地震の際の避難行動**の確認です。教室だけでなく、廊下で、体育館で、校庭で、昇降口で等、様々な場所にいた際に大きな揺れを感じたらどうしたらよいか、という学習です。具体的には、次の通りです。

①より安全な場所で

②姿勢を低くして

③頭を保護して 揺れが収まるのを待つ。



①については、「落ちてこない」「倒れてこない」場所を探す。③については、持っているカバンやランドセル、洋服などで**頭を保護**することが大切です。1～3年生はこのような学習を、4～6年生は、これらに加えて地震や津波の発生メカニズムについても学習しました。

この学習を生かして、6/30(金)の2時間目の終わった頃、「抜き打ち避難訓練」を実施しました。子どもたちには予告なしです。まだ授業をしていたクラスもあれば、すでに休み時間になっていて、校庭に出ている子や、廊下やトイレにいる子も、「訓練！只今大きな地震が発生しました…！」という教頭先生の一斉放送で訓練が始まりました。多目的ルームで中央に集まって姿勢を低く（ドロップ）している児童、教室の



机の下で頭や体を守る（カバー）児童、そしてほぼ全員が「大きな揺れが収まりました。気を付けて校庭へ集合してください。」という放送が入るまで、その場でじっと待つ（ホールドオン）ことができました。

4月に発表された「全国地震動予測地図」（政府地震調査委員会）によると、今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率は、横浜が81%、静岡が69%です。繰り返し訓練を行うことで、命を守る術を身につけてほしいと願っています。

【水泳指導・着衣泳】7/4(火)

「命を守る」と言えば、もう一つ。

高学年の水泳教室2日目に、山西プールで着衣泳を実施しました。今回は、校長自ら指導に当たりました。「着衣泳」と言っても、服や靴を身につけた状態で泳ぐわけではありません。不意に海や川に落ちた時に、

①慌てることのないよう、着衣のまま水に入る体験をする。

②呼吸を確保し救助されるまで浮き続ける方法を身につける。

③おぼれている人を発見した時の対処法を知る。という3つが主な目的です。①は「うわ〜っ」「気持ち悪い！」など、悲鳴のような声を上げながら、全員がぼっちり経験しました。②は、海や川などに落ちていそうな、出かけたときにカバンの中に入れていそうな、ビニール袋やペットボトルを使って「浮く」経験です。これも全員ぼっちりです。呼吸を確保するために、手に持つのではなく、顎の下で顔（口や鼻）が水面に出るように持つことを知りました。遠くに投げられないビニール袋も、中に水を入れることで、岸から離れたところでおぼれている人（③）に投げられることを知りました。さらに、もう一つ体験しました。水の中で着衣を脱いでみました。これで、泳ぎやすくなって助かるだろうと思ったら、大変な誤解です。「うわっ、寒い！」という声があちこちから上がりましたが、その通りです。服は体温低下を防いでくれるのです。さらには、外部損傷からも保護してくれるのです。

あごの下に

浮いて待つ



↑運動靴は浮力がある



小学校6年間の間にわずか1回か2回の経験ですし、こんな経験は役に立たないに越したことはないのですが、いざという時には、この経験や知識が生きてくるでしょう。

【学校研究】6/22(木)

今年度も、「自ら考え、伝え合い、学びを深める子の育成 ～物語教材における単元を通じた授業の工夫～」という研究主題で国語の授業研究を行っています。この日は、玉川大学客員教授の輿水かおり先生にお越しいただき、2年生の国語の研究授業の参観後に指導・講評をいただくなどして、研究を深めました。年明けの1月26日には、実践報告会といった形で、教育委員会や近隣の市町の先生方に対してこれまでの研究の成果を報告するとともに、実際の授業を見ていただき、国語の授業の進め方等について共に考える機会にする予定です。

【夏休み前の校長のつぶやき】

毎日ほんの少しずつでも、42日間の積み重ねは大きいです。ちりも積もれば山となります。